

ギンブナがいっぱい！

アサギカザリガニの増加で

2022年度水生生物 モニタリング報告



増加傾向にあるヌカエビ



ウキゴリ



張網で調査をする井の頭かいぼり隊

かいぼりで復活した在来種

井の頭公園では池に生息する魚やエビの生息状況を把握する目的でモニタリングを行っている。これまでの調査から、かいぼり後に在来魚などが回復したことがわかっており、2022年の調査では在来種が豊富な状態が続いていることが確認された。一方、外来種のアサギカザリガニも増加しており、捕獲数がこれまでで最多となった。

井の頭池の水生生物モニタリングは4月から11月に行っている。張網7個を用い、捕れた生きものを種類ごとに記録する。これまでの在来種の捕獲結果から、かいぼりを経るごとに在来種の数が増加してきたことがわかる(図1)。かいぼり27で外来魚のオオクチバスを、かいぼり29でブルーギルを根絶したことにより、在来種の生存率が向上したのと考えられる。

2022年は、例年と同じくモツゴやギンブナ、スジエビが多く捕れていたほか、従来は少数だったヌカエビもよく捕れた。年による変動はあるが、在来種全般として、かいぼり前よりも生息密度の高い状態が続いていると考えられる。

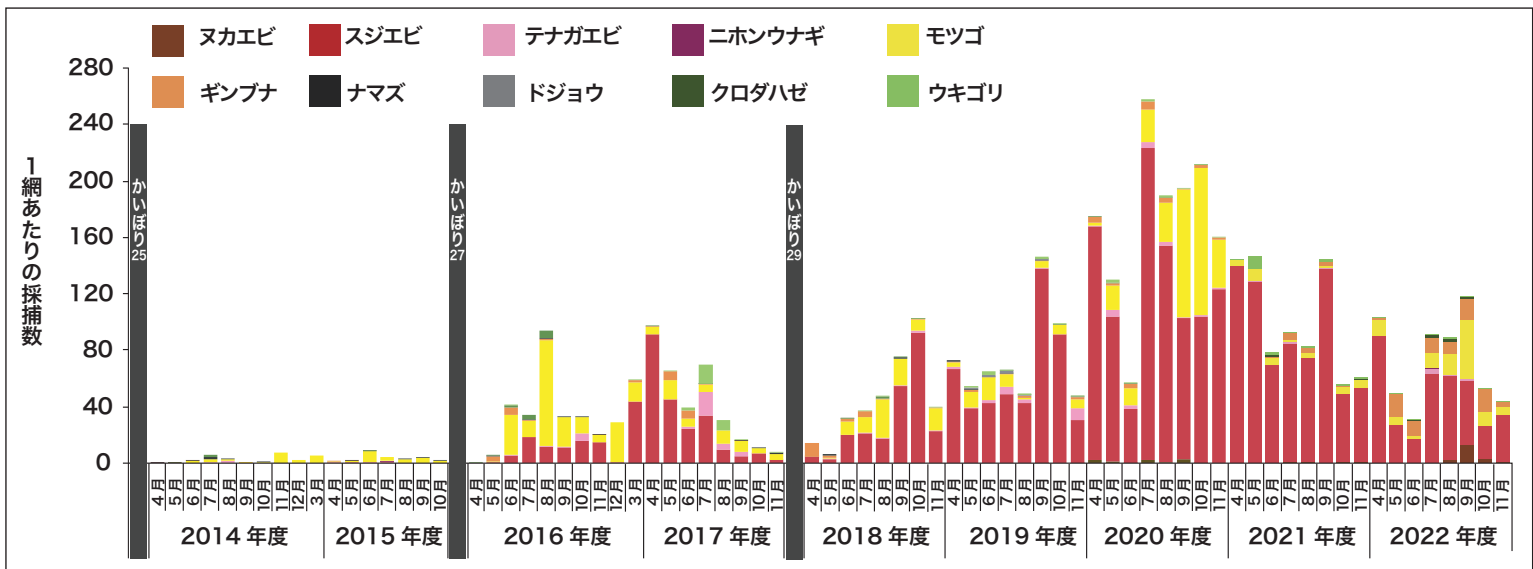


図1. 張網1個あたりの在来種捕獲数の推移



かいぼり隊による防除活動

アメリカザリガニ防除に使っているカゴワナ等による捕獲アータもモニタリングに活用している。カゴワナは張網と異なり、モクスガニが捕れやすい。かいぼり後に本種の捕獲数が増加していることから、井の頭池が本種の生息に適した水質の良好な状態に改善されてきていると考えられる(図2)。

アメリカザリガニが増加

一方の外來種は、かいぼりを重ねることに低密度になってきた。回収したワナに外來種が入っていないことも多く、対策が困難とされているアメリカザリガニも比較的低密度に抑えられてきた。しかし、2022年に状況が急変し、アメリカザリガニが増加(図3)。年間捕獲数はこれまでで最多のが23794匹となった。アメリカザリガニに関しては複数の増加要因が考えられるが、そのひとつとして、池全体に急激に広がった外來水草コカナダモが、アメリカザリガニの食べ物やすみかとして利用されていることが挙げられる。こうした要因に対処していく必要がある。合わせて、アメリカザリガニ捕獲ワナの増設と、捕獲効率のよいワナへの転換を進めていくことも大切だ。

今号の
イチオシ!

自然情報



ニホンイシガメの日光浴

4月から5月の晴れた日には、日光浴をするニホンイシガメがよく見られます。日当たりのよい杭の上などを探してみてください。

※井の頭池ではニホンイシガメを個体識別して調査・保全しています。他地域のニホンイシガメの持ち込みは遺伝的攪乱につながるのでおやめください。

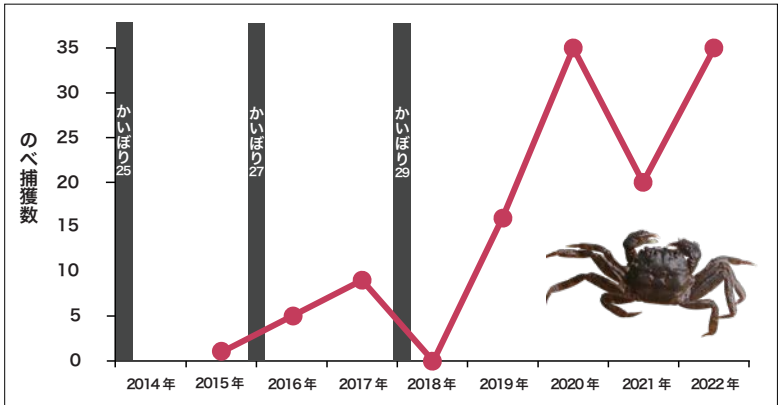


図2. モクスガニののべ捕獲数の推移

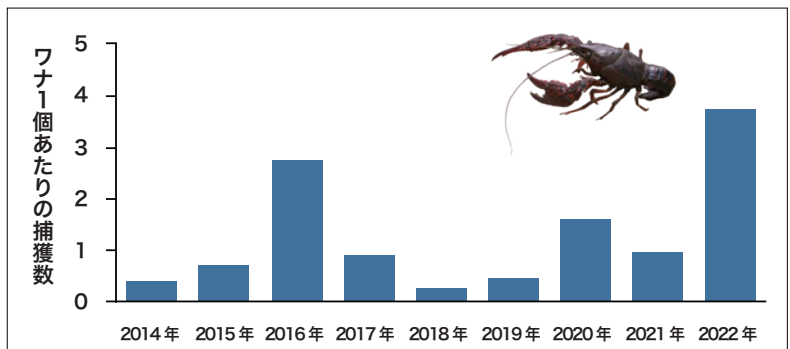


図3. カゴワナ1個あたりのアメリカザリガニ捕獲数の推移



空いた穴は手作業で縫います



新型ワナはパーツから手作り! 皆で協力して製作します

を補修に加えて、従来型のカゴワナよりも捕獲効率の高いワナを新たに製作しました。新型ワナは既製品ではないため、材料を加工して組み立てます。部品が多くて工程も複雑ですが、地道に作業を進め、今期は約50個を増産しました。これらのワナを使った防除作業がもうじきスタートします。

冬の間にはワナ作り

井の頭池ではアメリカザリガニによる生態系被害を防止する目的で、ワナを使った捕獲作業を春から秋に行っています。冬の間はアメリカザリガニの動きが鈍ってワナにかかりにくくなるので防除活動を休止していますが、代わりにワナの補修や製作が始まります。約180個のワナをひとつひとつ点検し、穴の空いた箇所を補修や、劣化している部品の交換を行いました。

Topics